

すずかも通信 22

1983.12.1

冬は寒いから好きだ

鴨がやってくるから

冬は冷たいから好きだ

木々や草花が

じっとがまんしているから

冬は：冬は：

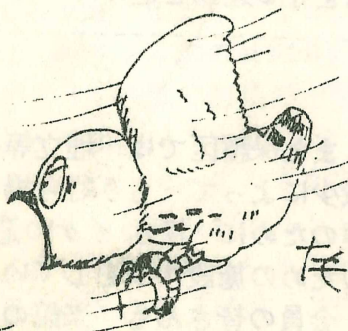
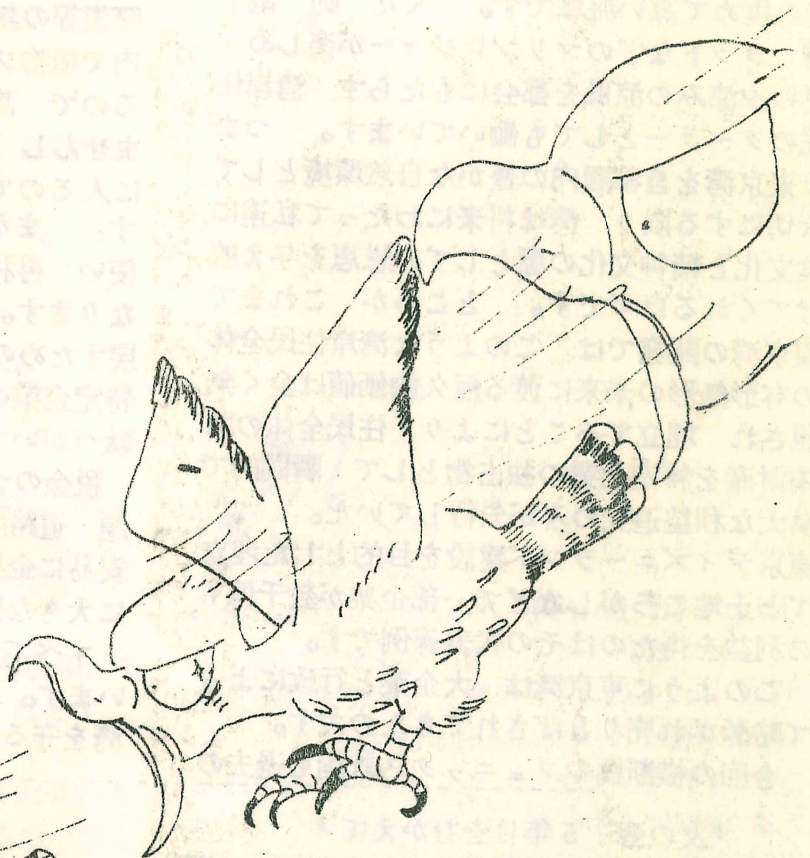
春になるから

鳥達がやってくるから

草木が芽吹くから！

とにかく、何でもかんでも

冬は好きだ(途)



来年は私の年です よろしくネ

詩：新妻途夫，イラスト：市川キ石

はあと

東京湾の問題は 単に「守る」という運動ではなくてなっています。

現在の具体的問題は 湾の過剰な有機物とその有機物を浄化させる干潟や 浅い海底を埋立ててしまったことにあります。 今後も東京湾横断橋や巨大ゴミ埋立地(フェニックス計画) 羽田空港拡張などの国家的開発計画が既にのぼっており このままでは東京湾には自然環境は存在しえなくなるでしょう。

東京湾はその地形からして 豊かな漁場であり魚やカニ エビを始めとする海洋生物生産の極めて高い海域です。 また 釣 潮干狩 ヨットなどのマリレジャーが楽しめる夏の夕涼みの涼風を都会にもたらす 湾岸住民のクーラーとしても働いています。 つまり東京湾を首都圏内の豊かな自然環境として大切にする限り 湾は将来にわたって私達に食文化と精神文化の源としての恩恵を与え続けてくれるはずで。ところが これまで東京湾の開発では このような湾岸住民全体の有形無形の未来に渡る恒久的価値は全く無視され 埋立てることにより 住民全体の共有財産を特定企業の独占物として 瞬間的で莫大な利益追求のみが先行していた。東京ディズニーランド建設を目的とした埋立てと土地ころがしなどで一部企業が数千億もの利益を得たのはその代表例です。

このように東京湾は 大企業と行政によって略奪され売りとばされてきたのです。

今回の横断橋やフェニックス計画も過去の

「友の会 5年目をむかえて」

行徳野鳥観察舎が昭和51年に開館し 蓮尾夫妻の管理によって 市民や鳥仲間との鳥との出合いの輪を拡げていきました。

その後 利用者数の増加や 本会の代表の亀谷さん達の 欠真間三角や駐車場問題等の運動を通して現在の 日本一の観察舎が昭和54年に開館しました。

開館と同時に 新たに会員制の行徳野鳥観察舎友の会が発足し 5年目を迎えました。(現会員数 256人)

新館への来館者数は のべ25万人近くになり 多くの人々にすばらしい 野鳥との出合いの場を作ってきました。

「湾を考える」

新浜研究会 風呂田 和夫*

やり方の沿長にすぎません。 N鉄鋼による巨額の鉄鋼売り付や大手土木会社の 高度成長期の過剰投資の回収のために 東京湾の巨大開発が計画されているようです。

今私達は東京湾を 首都圏にある豊かな自然環境として大切に 森林や公園を守るのと同じように監視しなければなりません。 そのためには 東京湾に影響を与えている私達の生活のあり方や 環境行政そのものも問い直す必要があります。 例えばこれまで通りの下水道の充実が 東京湾に入るリンや窒素等の無機物を減らせません。 これらは湾内で植物プランクトン等によって有機物となるので 湾の有機物汚染を押えることはできませんし 都市から直接様々な排せつ物が湾に入るの で 更に汚染が進む可能性があります。 またゴミの問題は ゴミを資源として使い 再利用すれば今の量の数分の1以下になります。 税金は東京湾の自然環境を取り戻すための将来への投資として使うべきで 特定企業の利益のために使うことは大変な無駄づかいです。

税金のつかい方 下水道問題 ゴミ河川問題 道路問題等 あらゆる社会の問題点は安易に企業のために働いている 行政の政策に大きな原因があるようです。

すべての問題は 東京湾と大きく関係しています。 東京湾を首都圏全体の問題として 湾を守る運動を進めてゆきましょう。

また保護区では 埋立等による淡水湿地の減少によって もう行き場の無くなった水鳥達のために 淡水イけの造成など 野鳥保護のための施設作りをしています。

会員の皆さんも 来館のおりには 鳥の説明や 施設作りなど 自分のできる範囲の仕事をつめて ご協力ねがえれば 幸いに思います。

今年もスズガモが数万羽飛来しています。

1月1日の行事でお会いしましょう。

すばらしい日の出 すばらしい84年であり ますように！ (田久保 晴孝)

○初日の出とスズガモの帰還を見る会

1月 1日 午前5時50分～8時

集合：塩浜海岸 午前5時50分

解散：観察舎前 午前8時ころ

案内：東西線行徳駅下車 駅前の大通りをまっすぐ南へ 徒歩約35分で海岸に出ます。 車の方は湾岸道路の交差点を出て 京葉線にそってすぐ斜め右へ つきあたりが海岸です。 新春恒例のこの行事も もう8回目。 '83年はスズガモがさっぱり入らず さびしい限りでしたが '84年はどうでしょう。 夜明け前の冷え込みに備えて 防寒は十分に。

☆12月13日頃をピークに 前後数日間 ふたご座流星群が見られます。

夕方車の空から 明け方西にかたむくまで 星カストルの付近からたくさんの流れ星が見られます。ピークには1時間平均50個も見られることがあります。

12月22日は小規模ですが こぐま座流星群のピークです。

星から流れ星が飛ぶのが見られます。 ツクエのすみから双眼鏡をとり出して 鼻水をすすりながらスターウォッチング いかがでしょうか 風邪をひかないように。

ーあなたのお名前は？ー No.1

○スズガモ

行徳の秋から冬を彩る代表的な鳥の一種で 漢字では「鈴鴨」 海上で大きな群れを作るので「鈴生りになる鴨」転じて「鈴鴨」と呼ばれるようになったそうです。

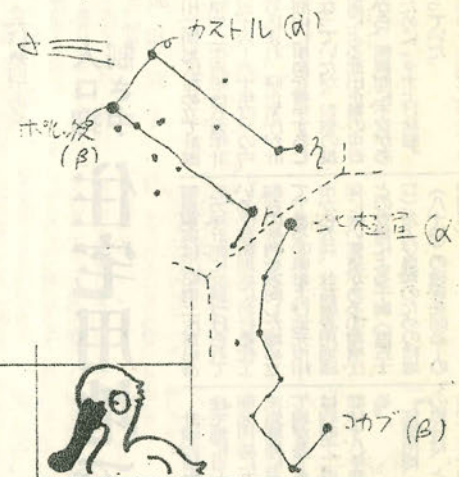
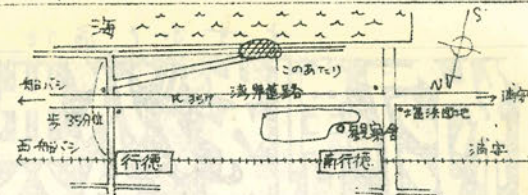
また メスのクチバシの基部に白色環があるので「ハナジロハジロ」とも呼ばれます。

学名は *Aythya marila*。 属名の *Aythya* は ギリシャ語の *aithya* (オニズナギドリ) が語源で海鳥の一種という意味。 種小名の *marila* は やはりギリシャ語の *marilē* (炭のもえさし) が語源です。 さしずめ「炭のもえさしの様な色をした海鳥」というところでしょうか。

さて この「炭のもえさし」君達 この冬は何羽まで増えますやら。

○クロツラヘラサギ

久しぶりに行徳を訪ずれてくれた珍鳥です 彼(彼女?)の名は漢字では「黒面鵜鷺」。 ちの独特な形をしたクチバシと クチバシの基部に黒色の皮膚が裸出しているところから名付けられました。 まさに名は体を表すとい



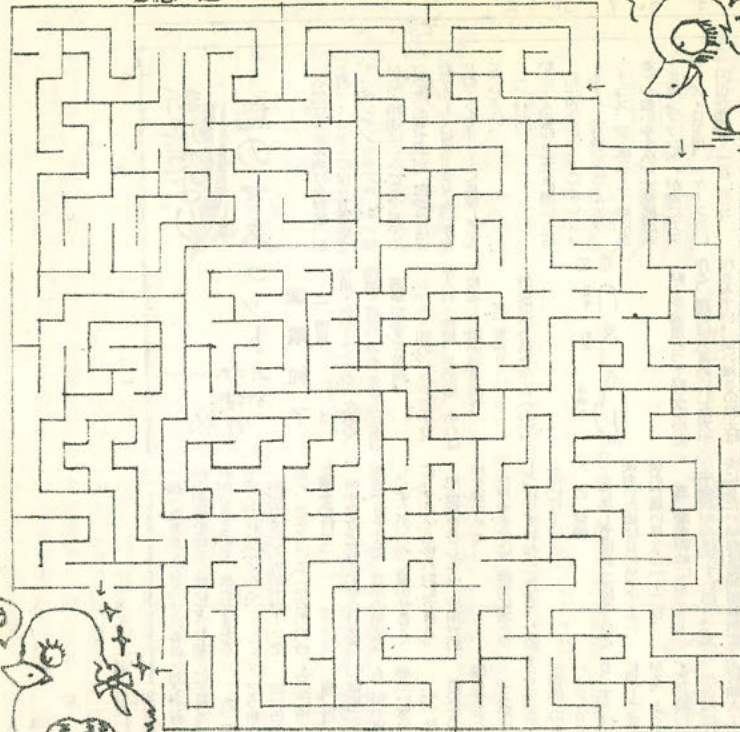
ったところですね。

英名もやはり「Black faced Spoonbill」 黒い顔をしたスプーンのようなクチバシという意味です。 学名は *Platalea minor* 属名の *Platalea* はラテン語の *plat-alea* (ヘラサギ) と ギリシャ語の *platys* (広い) が語源です。 種小名の *minor* はラテン語の *parvus* の比較変化で より小さいという意味です。 これはクロツラヘラサギの全長が7.3.5cmとヘラサギの8.6cmに比べて多少小柄なところから来ていると思われます。「より小さなヘラサギ」といった意味ですね。 この鳥は分布も極く限られ 世界的な珍鳥です。 この行徳でゆっくりと 羽を休めてもらいたいものです。

(匿名希望)

(11月23日現在名古屋地方にも クロツラヘラサギが2羽飛来しているとの報有 編集部註)

○恋の道のりは遠くつらいともします……



正解は……自分で探して下さい。

○新幹線と同じスピードで飛んでゆくカラスは マダガラス……なんてのは古典的ナゾナゾですが もうひとつ古典的なのを……

信号機の上に鳥が三羽止まっています 赤信号の上にはハイロヒレアシギが 黄信号の上にはアカアシカツオドリが それでは青信号の上には なんとという鳥が止まってるでしょう

(正解は編集後記に……)

お知らせ… 12月18日の友の会運営会議は都合により中止します。
1月からは 才2日曜日を例会とします。(1月8日、2月12日) PM 5:30~7:30

鳩の孝行

むかしのむかし 鳩はひねくれもので 親のいうことをちっともきかず 山へ行けといえ 川に行き 畑に行けといわれると 田んぼに行くといったあんばいでした。

それで親は死んだ時静かな山に埋めてもらいたいと思い わざと反対の川に埋めてくれといいました。ところが鳩は 初めて親のいうことを聞かなかったのは悪かったと 気付き親のいつけどうり 川原に埋めました。ところが川原では 水が出るたびに親の墓が流されそうで気がかかってたまりません。



それで雨が降りそうになると そのことを思い出しては 「トトボッポ親恋いし」と鳴くのだそうです。もう少し早くから親のいうことを 聞けば良かったのであります。(石川県民話)

○新浜自然観察会感想文

11月13日 僕は東京の高輪に住んでいます。家からは大井野鳥公園が近いので四季を通してよく行きます。家の前の大きな木に朝早くグエーグエーケケとオナガがやって来ます。ヒヨドリ ツグミ キジバト シジュウカラ メジロなども見られます。昨日の探鳥会(註 大井)ではビロードキンクロがとても印象に残りました。

新浜のサンクチュアリーでびっくりしたのは オナガガモが手を出すと寄って来ました(註 傷病鳥)。

とてもきれいで 人間がやさしくしたら あんなに慣れるんだなあと思いました。山久保さんの説明も よく分り ありがとうございました。堀崎修一 小6

11月13日 野鳥の会と友の会の合同探鳥会に参加。おめあてのセイタカシギには 蓮田でお目にかかれたが 草蔭に居たのとドロが深かったのとで 長い脚が余り良く見えず残念。観察舎に着いたら 突然の雨でゆっくり見ていることができず これまた残念。しかし合計44種の野鳥を確認できたうえ 民家の庭の木にとまっていたセキセイインコ1羽まで観察することが できました。新浜探鳥会はいつも出合う鳥の種類が多いので楽しみ。リーダーのお勧めで 友の会にも入会しました。今後も続けて参加したいと考えています。唯 集合が10時で 出発が10時半では 今後みんなが10時半に集合してしまうようになってしまうと思う 10時10分過ぎ位には出発すべきではないか ご検討を願う。鈴木 正敏

○休館のお知らせ

12月29日から 1月3日の間 行徳野鳥観察舎はお休みとなります。
(1月1日は 蓮尾さんのご好意により午前6時より8時頃まで 開けていただけます。)

一鳥ニュース

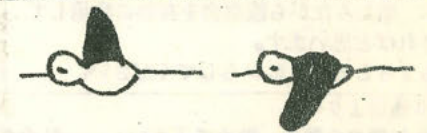
超強大といわれる シベリヤ寒気団のせい か 今年は次々と新しいお客様が到着しています。

○ミサゴ 10月1日~24日 ほとんど毎日現われて よく見えるくいの上で魚を食べて行きました。長期滞在は始めて。

○オオタカ 10月24日~11月15日 若鳥で 週に1~2回出現 これも長期滞在は始めてのこと。

○ハイロチュウヒ 11月12日~21日現在毎日現われています。白い腰のカッコいいこと! ♀タイプ

○クロツラヘラサギ 11月19日~21日現在滞在中。10時すぎ頃現われ 暗くならっても残っています。'81年12月以来



2年ぶりの登場。ずっと滞在してくれるといいのですが。この数日楽しいドジョウすくいを見せてくれています。

スズガモは21日現在5~7万羽。時々群れが姿を消してしまうのですが……まあ今のところは壮観です。

他に現在よく見られるのは カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ キンクロハジロ ホシハジロ オカヨシガモ セグロカモメ ユリカモメ ハマシギ シロチドリ ダイゼン コサギ ダイサギ アオサギ カワウ バン等

行 事 案 内

○定例 新浜探鳥会

12月11日(日) 1月8日(日)
午前10時 東西線行徳駅前集合

○定例 園内観察会

12月4日 18日 1月15日
午後1時半観察舎前集合 4時頃解散

○初日の出とすずがもの帰還を見る会

1月 1日(日) 別掲

○展覧会のお知らせ

いつも図書室に飾られているすてきな花の水彩画 お気付ですか。塩浜にお住まいの大関みき江さんの作品です。1月に「四季の草花」として、観察舎内で待望の個展を開いていただく予定です。(元旦～26日迄)

○土曜会(仮称)へどうぞ

12月17日 1月21日 観察舎図書室
毎月第3土曜日 午後1時半～4時まで

友の会の諸雑務(雑役?)を担当されている大関さんを囲んで おしゃべりや手芸その他諸々の活動をやろうという会です。

当面は好評のマスコット作りをやる予定ですが 楽しみながら観察舎を有効に活用して行ければと思います。

ちょっとのぞきにいらしてください。

○歳末スライド会

12月25日(日) 午後2時～4時

会場; 観察舎1階視聴覚室

前 大好評だった 馬場孝雄さんをお招きし 皆さんのケッ作(?)を持ちよって スライド会を開きます。出品される方は前日までに 内容を観察舎運尾まで。

○忘年会

12月25日(日) 午後5時～7時

スライド会のあとで 紅茶とケーキでも囲んで楽しくおしゃべりしようという会です。

・参加費(ケーキ代)300円 (クリスマスのことでもあるので 300円位までのプレゼントの交換会をしたいと思います。)

○マスコット作り講習会

1月22日(日)

29日(日) 午後2時～4時

会場; 図書室

指導; 新妻途夫 材料費; 100円

○すずがもの飛び立ちを見る会

1月 8日(日)

22日(日) 午後4時半～6時頃

防寒の用意はしっかりと。

鳥の集まりぐあい等により 中止することがありますので 観察舎運尾まで お問い合わせ下さい。

一事務局より一

今年度の会費を 納めて下さい。一般会員1000円 賛助会員2000円以上 ジュニア会員(小中高校生)500円です。観察舎でお金をあずかってもらえます。

その他 絵はがき シール 鳥のマスコット 鳥の図鑑なども販売しています。

'84年のカレンダーができました 定価1000円 会員特価800円です。

一編集後(荒)記一

○妙典の湿地がどんどん埋め立てられています。行徳沖の海の埋立ても動きだしてきました。自然を守ることは大変なことですか 今年もよくご協力下さい。(はるたけ)

○信号が青なら進め～(スズメ)ですヨね。くだらない答でゴメンナサイ!

初めての増ページ 頭の悪さをつくづく実感しました 皆様のご協力お願いします(途)

すずがも通信

NO.22

1983年12月1日発行

振替口座2-6129

年会費1000円

発行人 亀谷 栄

事務局 鈴木 有孝

編集人 田久保 晴孝

新妻 途夫

行徳野鳥観察舎

〒272-01 市川市福栄4-22-11 TEL 0473(97)9046